

社会貢献者表彰とは

国の内外を問わず、社会と人間の安寧と幸福のために貢献し、顕著な功績を挙げられながら、社会的に報われることの少なかった方々を表彰させて頂き、その功績に報い感謝することを通じてよりよい社会づくりに資することを目的とする。

平成26年度社会貢献者表彰の概要

【募集告知】

平成26年1月中旬より、ダイレクトメール発送、新聞への告知広告、当財団ウェブサイト等にて。

【対象となる功績】

- ・人命救助の功績
- ・社会貢献の功績
- ・海への貢献の功績

【候補者について】

- ①候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍等の制限はない。
- ②候補者は、同種の功績により当財団の「社会貢献者表彰」を受賞されていない方とする。
- ③候補となった功績と同一または同種の功績により、既に国の栄典（叙勲、褒賞）または・大臣表彰等を受賞されている方は、選考の際、後順位とされる。
- ④「人命救助の功績」については、原則として、平成25年4月1日以降の功績を対象とし、この功績の場合のみ、当該行為により亡くなられた方を含む。また上記③は該当しない。

【選考について】

選考委員会開催日：平成26年6月3日（火） 於第一ホテル東京

【受賞者】

受賞者：47件

応募総数：136件

【表彰式】

開催日：平成26年12月1日（月） 於帝国ホテル東京

受賞者には表彰状、副賞として日本財団賞（賞金）を授与する。

受賞者手記目次

■人命救助の功績

佐藤 和哉	032
湯浅 龍斗／山田 泰聖／井関 千颯／吉野 優也	034
近藤 啓一郎	036
森上区自主防災会	038
山口 静子	040
巖 俊	042
北川 よし子／小崎 緑／近藤 潤哉	044
古宇利 春孝／仲宗根 弘	046
サンドゥ・ヨノツ	048

■社会貢献の功績

認定 NPO 法人 抱樸	052
小俣 智子	054
社会福祉法人 太陽福祉協会	056
水谷 和孝	058
大島町消防団	060
NPO 法人 福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト	062
藤田 裕喜／藤田 孝子	064
福住町町内会	066
NPO 法人 被災者応援愛知ボランティアセンター	068
りんごラジオ	070
特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク	072
NPO 法人 がんばっと!! 玉浦	074
特定非営利活動法人 市村自然塾 九州	076
特定非営利活動法人 上野丘さつき家族会「淡河町ゾーン・バス」	078
久保田 英朗／河野 伸二郎	080
特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	082
鬼 一二三	084
社会福祉法人 柚の木福祉会	086
特定非営利活動法人 日本歯科ボランティア機構	088
一般社団法人 ホワイトハンズ	090

ウィメンズセンター大阪	092
特定非営利活動法人 おきなわ CAP センター	094
武田 純子	096
ほっかいどうタンポポ	098
NPO 法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	100
松山 倫政	102
野菊荘	104
米谷 新	106
ボリビア、オガル・ファティマにおけるイエスのカリタス修道女会の邦人シスター達	108
浦河べてるの家	110
社会福祉法人 広島いのちの電話	112
特定非営利活動法人 ソルト・パヤタス	114
特定非営利活動法人 グローカルギフトネット	116
宇佐川 照孝／宇佐川 秀子	118
医療法人 聖粒会 慈恵病院	120

■海への貢献の功績

母なる海を守る会	124
NPO 法人 黒潮実感センター	126
認定 NPO 法人 ふるさと東京を考える実行委員会	128

人命救助の功績

- ▶ 海難、水難、交通事故、遭難等に際し、身命の危険を冒して救助、救援に尽くされた功績
- ▶ 犯罪等の発生に際し、身命の危機を冒してその解決に協力された功績
- ▶ 災害、事故、犯罪の発生を未然に防いだ功績



佐藤 和哉

..... 032



湯浅 龍斗

..... 034



山田 泰聖

..... 034



井関 千颯

..... 034



吉野 優也

..... 034



近藤 啓一郎

..... 036



森上区自主防災会

..... 038



山口 静子

..... 040



巖 俊

..... 042



北川 よし子

..... 044



小崎 緑

..... 044



近藤 潤哉

..... 044



古宇利 春孝

..... 046



仲宗根 弘

..... 046



サンドウ・ヨノツ

..... 048

佐藤 和哉



青森県

平成25年7月16日午前8時35分頃、青森山田高校野球部員の佐藤さんは、青森市合浦公園駐車場において夏の高校野球青森県大会の交通整理中、女性の叫び声を聞きつけたため声がした方角に走って行ったところ、男が被害女性に馬乗りになりながら、その女性の首に包丁を突き付けているのを目撃した。佐藤さんは自らの危険を顧みず、男に体当たりして女性から引き離し、男が右手に握っていた包丁を素手で取り上げて遠ざけ、助けが来るまで男を押さえつけた。男は、殺意を持って包丁で女性の左前頸部などを切り付け、加療2週間に要する傷害を負わせたもの
(推薦者：公益財団法人 警察協会)

私は全国高校野球選手権青森大会の駐車場係をしていました。1年生の頃からやっているのですが多少のトラブルも頭にいれながらやっていました。

1時間ほどやっていたら遠くの方から女性の叫び声が聞こえ、どうしたのだろうと思いきその場所へと駆け寄りました。よく口論になっている場面を見かけたりするので今回もそれかなと思っていました。しかし、目の前には包丁を持った男が女性の首を切りつけ、アスファルトには血だまりができていました。

周りにいた人達はパニックで体が動かない状態でしたし、女性の方しかいなかったのが私がいくしかないと思い、男性に体当たりしました。意外にも男性はそれほど抵抗がなく、簡単に押さえつけることができました。

その後は男性が持っていた包丁を取り上げ遠くへ投げとばし、他の部員が警察に電話してくれました。

その後すぐに警察官の方が駆けつけて、犯人を連行しました。私もその時の説明をするために警察署へ向かうためパトカーに乗りました。そのパトカーの中で警察官の方が褒めてくれたのですが、一度冷静になり、もし私が切りつけられ命を落としたときのことを考えると怖くなり体が震えました。

警察署で説明が終わり球場へ戻ると、報道関係の方が20人以上待ち構えていて驚きました。私がした事の大きさというものを実感するとともに、女性の方の命が助かって本当に良かったと思いました。

そして、この事件がきっかけで警察官になりたいと強く思い、警察官を目指す決意をしました。そして今年の11月28日に最終合格が決まり警察官になるという夢を叶えることができました。

今回、警察協会の方から推薦をして頂き、貴重な体験をさせていただきました。私の人生の中でこれ以上ない経験だと思います。受賞者の方々は社会のため、人のため、自

然のため様々なことに尽力しているということを知り、私もこれからは様々なことに尽力していこうと決意しました。

4月からは警察官として社会のために働く私ですが、この経験を活かして頑張ります。

社会貢献支援財団の関係者の方々、表彰された方々、そして一番お世話になった池田さん、本当にありがとうございました。



▲事件が起こった駐車場



▲合浦公園

合浦公園駐車場 女性切りつけ 殺人未遂容疑 男逮捕

青森署・奥警 待ち伏せ後口論か

16日、青森市の合浦公園駐車場で、青森市在住の16歳の女子高生が、青森市在住の20歳の男子高生に切りつけられ、重傷を負った。青森警察署は、この事件で、容疑者を逮捕し、殺人未遂容疑で起訴した。容疑者は、事件発生後、現場から逃げたが、16日、青森市で待ち伏せされた後、奥警に発見され、逮捕された。容疑者は、事件発生後、現場から逃げたが、16日、青森市で待ち伏せされた後、奥警に発見され、逮捕された。

「無我夢中だった」

取り押さえた青森山田野球部 佐藤和哉君

青森警察署の奥警、佐藤和哉君は、事件発生後、現場から逃げた容疑者を待ち伏せし、取り押さえた。佐藤君は、事件発生後、現場から逃げた容疑者を待ち伏せし、取り押さえた。佐藤君は、事件発生後、現場から逃げた容疑者を待ち伏せし、取り押さえた。

▲東奥日報 青森 '13.7.17

青森署 奥警 待ち伏せ後口論か

3年で野球部員の佐藤和哉君(16)に18日、青森警察署から本部長感謝状が贈られた。奥警にまさか、事件解決に協力した個人本部長感謝状が贈られた。青森の合浦公園駐車場であった殺人未遂事件で、容疑者逮捕に協力した青森山田高(青森市) 式で、山本有一本部長が、山本県警本部長(右)から感謝状を受け取る佐藤君

「市民の命を救ってくれた度ういことができたため、駐車場で誤傷事件を繰り返さないよう、感謝状を贈りたい」と感謝状を手渡した。山本本部長が「何となく、無我夢中だった。佐藤君は「無我夢中」で布くならなかった。女性の命を救えて良かった」と答えた。将来の夢は警察官という佐藤君は、同様に「今、高校野球青森大会のため、16日、青森市で待ち伏せされた後、奥警に発見され、逮捕された。佐藤君は、事件発生後、現場から逃げた容疑者を待ち伏せし、取り押さえた。佐藤君は、事件発生後、現場から逃げた容疑者を待ち伏せし、取り押さえた。」

▲河北新報 平成25年(2013年)7月19日(金曜日)

湯浅 龍斗／山田 泰聖／井関 千颯／吉野 優也



千葉県

平成26年1月11日午後5時50分頃、4名が自転車に乗り鎌ヶ谷大仏駅の踏み切りを通りかかったところ、線路上で転倒して起き上がれない女性を井関さんが発見した。4名が女性を助けようとしたところ、遮断機が下り始め、警報器が鳴り始めたため、湯浅さんは非常ボタンを探し、井関さんと吉野さんは駅に停車して発車しようとしていた電車の運転士に両手を振って合図を送り、山田さんは携帯電話で110番通報した。その後、異変に気が付いた運転士が踏切に向かい、通行人とともに女性を救助した。

(推薦者：船橋市教育委員会)

湯浅 龍斗

僕の考え方を教えてくれた～change my life～

今年1月11日、僕は同じサッカー部の友達3人と新京成電鉄鎌ヶ谷大仏駅から家に帰る途中、踏切内に横たわり動けなくなっているお婆さんを皆の連携プレーで助ける事が出来ました。助けたときは無我夢中でしたが駆け付けた警察官の方が僕たちに「怪我はない？」と優しく声をかけてくれると初めて自分達も命の危険があった事に気づき、涙が溢れてきました。家に帰っても怖くて一人でお風呂に入る事も出来ず、なかなか寝付けませんでした。

そんな日が何日か続きましたが、やっと心も落ち着きいつもと変わらず部活に明け暮れている頃、お母さんから社会貢献財団からの表彰があると聞きました。意味もわからず当日を迎えると全国からたくさんの表彰者がいて話を聞くとそこには皆自分だけでなく人の為に必死に活動している方達ばかりでした。僕も今回の人命救助ができた事は一人じゃなかったからだと改めて気づかされました。一人じゃ出来ないことも皆が力を合わせれば何事も乗り越えられるという事を学ばせてもらう事が出来ました。

今後も人と人との繋がりを大事に、思いやりを持った行動をしていきたいと思います。

山田泰聖

「人命救助で学んだこと」

「日本ほど安全で、住みやすい国はないです」僕は、安倍昭恵さんがおっしゃっていたこの言葉がとても心に残っています。

平成26年1月11日、僕たちはスポーツショップで買物をした後、いつものようにみんなで踏切を渡ろうとした時に、井関君が線路に横たわっている女性を発見しました。みんなで助けようと決意した時には、警報器が鳴り遮断機がおりてきました。

「やばい」頭が真っ白になり、自分には何が出来るか考えていたら警察が頭に浮かんできて、「通報しないとだめなんだ」と思いすぐに110番をしました。そして、通行人とともに無事、お年寄りを助けることが出来ました。

一人だったら助けられたのかと思うととても怖くなりましたが改めて仲間の大切さ、チームワークの素晴らしさを痛感しました。

社会貢献支援財団の方から表彰式に参加出来る事をうかがい、この様な立派な式典に出席出来た事は僕の一生の思い出になると思います。

本当にありがとうございました。



▲当時の状況を図で説明する4人



▲新京成電鉄鎌ヶ谷大仏駅



▲女性が動けなくなっていた踏切

井関 千颯

「人の為に行動できる人」

僕は今年1月11日、駅踏切の線路内で動けなくなっている女性を発見し友達3人と連携して女性を救出しました。救出した時は何も考えられず頭の中はただ助けなきゃ、と体が勝手に動いている感じでした。

その後、僕達は警察署から感謝状を頂いたり TV や新聞の取材を受けたりと暫くあわただしい日々を送っていました。

しかし、そんな日々も忘れてしまっていた頃に社会貢献支援財団から表彰されると聞きました。僕はこれがどういう事なのかも分らず楽しみに会場に向かいました。ところが受賞者の顔合わせで驚いてしまいました。それはみなさんの功績はどれも立派なものだったからです。自分の損得も考えず他人を思い行動を起こしている方々を目の当たりにして自分も見習っていきたいと思いました。そして今後、お年寄りや女性、僕より小さな子供達に優しく多くの人の為になるような事が出来るようにもっと勉強しようと思いました。

最後に、この度は素晴らしい経験をさせて頂いた事にも感謝しています。

吉野 優也

今年1月11日、僕は友達と買い物に行った帰りに、踏切の線路内で動けなくなっている、おばあさんを発見し、僕達は無我夢中で電車を止めようとしたり、警察に通報したりして、おばあさんを無事に救出する事が出来ました。無我夢中だったので、その時は怖くはなかったけど、今思えば自分達もかなり危険な状況だったんだなと思います。

普段から一緒に部活動をやっている仲間だから4人で協力出来たんだなと思います。

一人だったらもしかして怖くなって逃げてしまっていたかもしれません。

今回、社会貢献者表彰式での受賞をさせて頂き、本当に嬉しく思います。色々な社会に貢献している方にも会うことが出来、貴重な体験をする事が出来て誇りに思います。

何よりも無事におばあさんを救出する事が出来て良かったです。

▲千葉日報 2014年(平成26年)1月24日(金曜日)

近藤 啓一郎



岐阜県

平成25年8月25日午後3時52分頃、名古屋市金山総合駅名鉄1番線下りホームで電車待ちをしていたところ、ホームから線路上に女性が転落するのを目撃した。女性は線路にうつぶせに倒れたまま動く気配がなかったことから、線路に飛び降り女性をホームに移動させようとしたが、電車が迫ってきたため、線路に掛かっていた女性の体をレール内に押し込み、近藤さんは線路外に退避した。女性は頭や腕を負傷したものの一命は取り留めた。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

社会貢献者表彰を受賞して

この度は社会貢献者表彰にて、身に余る賞を頂きありがとうございました。表彰式で大勢の方に拍手で迎えられた時は、感動とともに、大変身の引き締まる思いでした。金山駅での事故の当日はホームでの人影がまばらで、ホームから転落した女性を救助できるのは自分しかないと思い、躊躇なく線路に飛び降りました。不思議なことに電車が迫ってくる恐怖をあまり感じることなく、いかに女性を救助するかそのことだけを考えていました。運もあり、女性が助かったことを確認できた際には大きな安堵感を覚えました。

ただ被害者の方は事故で負傷し、いまだリハビリが続いているとのことで、事故の大きさを感じずにはられません。最近、ホームからの転落事故が多発し様々な対策がとられるようになっていますが、このような事故が世の中から根絶されることを心より願っております。

最後に今回の表彰式に出席させて頂き、多くの方々が自分の知らない分野で、良き社会の実現のため努力を重ねていることを知りました。また他の受賞者のお話を拝聴する機会を頂き、強い信念やパワーを感じる事ができ非常によい経験ができました。私としても今回の表彰を励みに、今後も社会に貢献できるよう努力を重ねていきたいと思っております。



▲女性が落ちたホーム



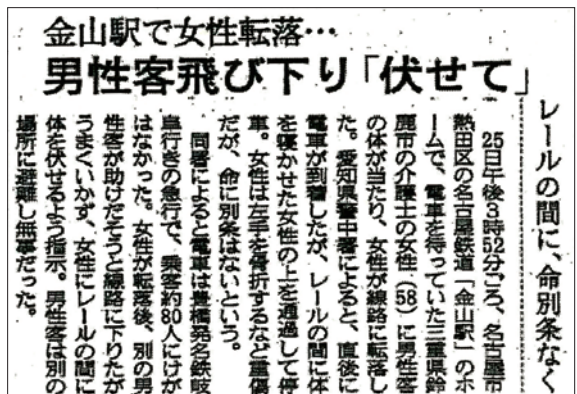
▲この線路の内側に女性を寝かせた



▲中日新聞 2013年（平成25年）9月4日（水曜日）



▲進入する電車



▲日経新聞 平成25年8月26日

森上区自主防災会



会長
梅沢 清一

新潟県

平成25年7月30日午前4時40分頃、新潟県長岡市森上地内で発生した土砂崩れで民家2軒が全壊し、閉じ込められた3名の居住者を消防が到着する前に住民が協力して救出活動を行い、2棟からそれぞれ1名ずつ救出して避難させ、消防到着後は個人所有の大型重機バックホーを提供して救助補助を行ったり、チェーンソーや小型ジャッキを持ち寄ってもう1名の救出に協力した。二次災害を省みずに人命救助に貢献した。

(推薦者：新潟県長岡市)

11月30日、家を出て長岡駅まで車で30分、新幹線で東京駅へ約1時間半そして帝国ホテルへ。2時間余りで全くの別世界へ着きました。その日は受賞者の功績紹介と夕食会があり、アルコールも入って気持ちよく眠ることができました。

12月1日の表彰式典では、瑤子女王殿下のお言葉があり、安倍昭恵会長よりひとりひとりに表彰状と副賞が贈呈され、その後の祝賀会と夢のような2日間でした。それにしても全国には無欲で他に尽くしておられる多数の人々がおられる事に驚き、頼もしく思いました。

私たちは山あいの小さな集落で起きた豪雨による土砂崩れで全壊した2件の家に閉じ込められている3人を救出した事が人命救助という事になりましたが、ほとんど毎日顔を合せている人がそこで動けないでいるのが分れば、多少の危険を冒してでも助けようとするのが当たり前です。たちまち十数名が集まって来て協力して無事外に出すことができました。1名が骨折の重傷を負いましたが命に別状は無く、2名は怪我も無く、本当に良かったと思っています。そして今回の表彰をいただく事となり喜んでいきます。

選考委員の内館牧子さんが挨拶の中で「副賞は気にせずパーッと使ったらい」と言われました。そのお言葉で気楽になりましたが、私たちは個人受賞ではありませんのでこの機会に防災グッズなどを買ってはと思っています。

社会貢献支援財団に感謝申し上げます。



▲土砂が崩れた様子



▲森上地内 土砂崩れ現場 写真撮影位置図



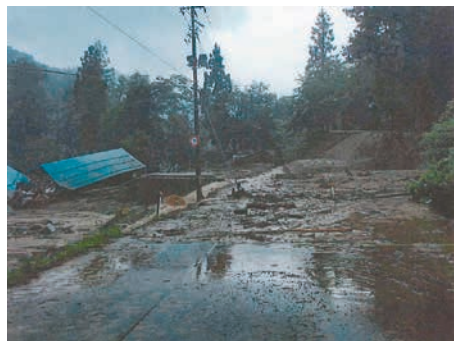
▲①土砂崩れを起こした部分の状況



▲②土砂崩れにより道路が遮断された状況



▲③主要地方道栃尾山古志線が、土砂に埋もれ遮断された状況（南方方向より撮影）



▲④主要地方道栃尾山古志線が土砂に埋もれ遮断された状況（北方方向より撮影）



▲毎日新聞 2013.7.31 (水)

山口 静子



新潟県

平成26年2月4日午前9時30分頃、長岡市内のJR信越本線踏切において山口さんは職場に向かうため、車で警報機の鳴る踏切で停車していたところ、付近にいた男性が杖を置いて遮断機をくぐって線路内に侵入し立ち止まったのを目撃したため、自らの危険を顧みず遮断機をくぐって男性の両脇を抱え踏切内から救出した。直後に列車が来て緊急停止した。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

平成26年2月4日の朝、仕事に向かう途中どうしても必要なミニトマト1パックを購入するためスーパーへ向かった。そのため、いつもの通勤ルートとは違う道を通り勤務先に向うことになった。近道だと思い向かった道ですが、タイミングが悪く踏切の遮断機が降り、警報機が鳴っていて、私は先頭で待つことになりました。

その時、左前方にご老人の男性が一人立って待っている姿が視野に入り、そのあと接続しているアングルのような場所に腰をかけられたのを見て、私も電車が通過するまでと思い車内の荷物等の確認をしていました。その時間は数秒であったと思います。ふと前方を見るとご老人は待ちきれなかったのか、遮断機をくぐりぬけ線路内に入っていられました。「危ない!!」と思った瞬間、私は車から飛び出し線路に入り、後ろから抱きかかえるようにして線路の外にでました。勢いのあまりご老人を抱えたまま後ろにひっくり返ってしまいました。すると信越線柏崎方向に向かう電車を通り、「間に合った・・・。」とほっとして我にかえりました。抱きかかえたまま電車を見送っていると、最後尾の車両が踏切内で停車してしまい、これは大変なことになってしまったと思ったのを記憶しています。

あとで聞いたことですが、電車から踏切内の様子は見えていて、ブレーキをかけたが間に合わなかったようです。普段は踏切には緊急停止ボタンがあることも認識していましたが、その時は頭から飛んでおり、状況判断にかけていたのではと反省もしました。

今思えばどうしてもあのような行動がとれたのか自分でも不思議なくらいですが、無我夢中で一瞬の判断が男性の命も、自分の命も守り、様々な偶然が重なり、結果的に難を逃れ、救出でき、今があるのだと思います。その場に遭遇したら、人として当たり前のことを行ったままでですが、このような名誉のある立派な賞を頂けること、一生の思い出になりました。深く感謝いたします。



▲現場の前の山口さん



▲救助が行なわれた踏切

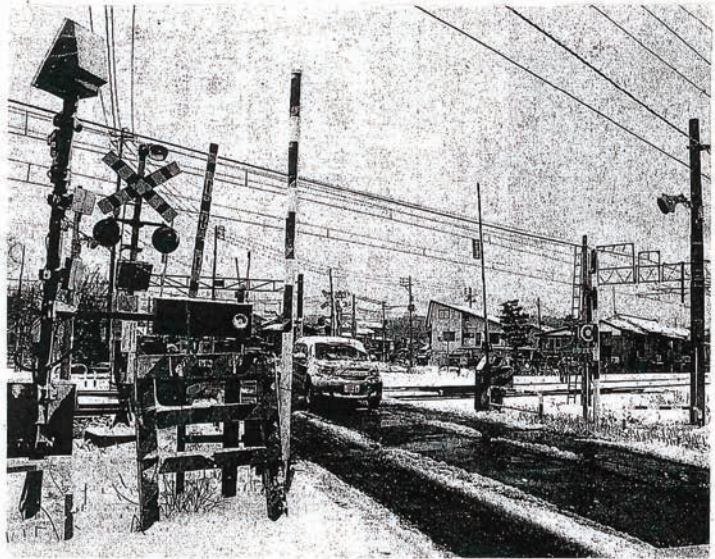
踏切で女性がお年寄り救助

長岡市来迎寺のJR信越線長岡街道踏切で4日、警報機が鳴り遮断機が下りた踏切内で動けなくなっていた高齢男性が、付近を通りかかった女性に助け出されていた

遮断機くぐり線路脇へ

長岡 JR信越線

ことが分かった。2人へのけがはなかった。女性は「助けなくては、という気持ちだけで、安全確認もせずに踏切内に飛び込んでいた。ひかれなくて良かった」と胸をなで下



高齢男性が救助されたJR信越線長岡街道踏切の現場

—長岡市来迎寺で

ろしていた。救出したのは小千谷市内に住む飲食店員、山口静子さん。山口さんによると、4日午前9時半ごろ、車で仕事場に向かう途中に同踏切を通りかけた際、警報機が鳴って遮断機が作動している最中に、近くで腰を掛けていた男性が急につえを置いて踏切内に侵入した。山口さんは「危ない」と思い、遮断機をくぐって男性を抱えるように線路脇へ移動させて救出。直後に列車が来て緊急停止した。

男性は80代くらいで、散歩中だったという。山口さんは「突然の出来事でびっくりした。同様の場面に遭遇すれば、みんな同じ行動を取ったと思う」と謙遜していた。

【湯浅聖一】

巖 俊



大阪府

平成25年9月16日、大阪市北区の淀川で、濁流に流された男児（9歳）を水に飛び込んで救出した。当日は台風18号が日本列島を縦断しており、川へ飛び込み救出を試みたものの上手くいかず、一旦岸にあがり重くなった衣服を脱ぎ、流される男児を追って100メートル程下流へ走り、付近にいた人の協力を得て、ロープを体に巻き付け再び川へ飛び込んで男児をつかみ岸まで泳いだ。巖さんは3年前に来日した中国からの留学生。

（推薦者：大阪華僑総会）

去年9月の頃、大阪の淀川で9歳の男の子を救出したことは皆様よくご存じかと思います。実に、そのときは、周りにいる人からも手伝っていただきました。私は皆さんの協力のもとで、その子供を救出することができました。今回、大阪華僑総会の推薦を通じて、社会貢献支援財団の賞をいただき、本当にありがとうございます。

今回受賞された方々の功績が書かれた冊子を読んで、本当にわたくしよりもっと素晴らしい人がいると思いました。例えば、海で子供4人を救出したサンドウさんやカンボジアで教育事業を捧げてきた鬼一二三さんなど。また、高い医術をもって、高収入の仕事に務めずに、ボランティアとして貧しい人々を助けている人々もいます。たくさんの方々には長年にわたって社会に捧げていて、本当に素晴らしいと思います。

普通の人々はただ自分のために生活をしていますけれども、今回の受賞者たちのように自分を犠牲して周りの人のために頑張っている方は少ないです。私は経済を勉強しています。経済理論によって、人は利己的です。したがって、社会は非効率に陥ります。今回の受賞された様な方が増えて、人々がお互いに協力すると、社会はもっと住みやすいところになると思います。

財団の関係者の方々には完璧な式典を行うために何日間も一生懸命に働いておられるようでした。皆さんの頑張っている様子を見て、私も頑張らなければならないと思います。今回の式典に出席して、本当に自分の知見を広げました。これから、皆様のことを見習って頑張っていきます。



▲厳さん救助現場にて



▲淀川の堤防

台風18号 大阪・淀川で小4流され

今年16日、台風18号による大雨で増水した大阪市北区の淀川で、足を滑らせて転落した大阪府高槻市の小学4年男児(9)を中国人留学生、厳俊(さん)28)が川に飛び込み救助した。中国版ツイッター「微博」(ウェイボ)や中国のニュースサイトに書き込みが殺到するなど、厳さんには日中から称賛の声が相次いでいる。大阪府警には「直接お礼を言いたい」などの電話が関東や中国地方からも舞い込み、田中法曹・府警本部長は18日「身の危険を顧みない勇気ある行動に感銘を受けた」として厳さんを表彰した。厳さんは毎日新聞の取材に「人命を助けるのに国籍は関係ない。自分の行動が日中友好のきっかけになるのならうれしい」と語った。【高橋隆輔、上海 帰後インタビュー】

中国人留学生 命懸け救助

「国籍は関係ない」



小学生を救助した状況を話す厳俊さん—大阪市北区で17日午後5時半、大西岳彦撮影

なく何度も失敗。自身も大量の水を飲み「自分の人生もこれまでか」と死を覚悟した。その後、力を振り絞って岸に上がり約100メートル下流まで走って先回

り。ぬれた衣服を脱ぎ、動一「中国人と日本人近隣住民が持っていたロープを体に巻き付けて再び川に飛び込んだ。水中に消えかけた男児を右手でつかみ、左手で水をかいて必死に岸まで泳いだという。「微博」上には「凍りついた中日関係に新たな空気を吹き込む行動に感銘を受けた」といったコメントが

「携帯電話は川に流されてつながらないけど、無事だから心配しないで」とメールで連絡すると、「あなたを誇りに思う」と返信があったという。厳さんは「戦後復興を果たした日本で経済を学びたい」と3年前に来日し、来春から大阪市立立命館大学に入学予定。アルバイト先のコンビニエンスストア店長の松田庄司さん(81)は「正義感が強く、勤務態度もまじめ。放っておけなかったんでしよう」と話した。

北川 よし子／小崎 緑／近藤 潤哉



愛知県

平成25年7月1日午後5時50分頃、三重県亀山市市内名阪自動車道上り付近を時速約80キロで走行中の大型観光バス（乗務員1名、乗客31名）の運転手が突然意識を失った。運転操作不能になったことに気付いた北川さんと小崎さんは、二人でハンドルを操作し安全な走行を確保し、近藤さんは、運転席足元に潜り込み、手でブレーキペダルを操作して追い越し車線付近に、3名による連携でガードレールに接触しながらも無事にバスを停止させた。その後、北川さんらはバス運転手に心臓マッサージ等を施したが、運転手は搬送先の病院で亡くなった。

（推薦者：公益財団法人 警察協会）

北川 よし子

「事故？」

バスがぶつかった瞬間、反射的に運転席へ駆け寄っていました。

小崎さんと2人で左右に揺れるバスのハンドルを握り、ぐったりした運転手さんを起こそうと必死でした。

不思議と恐怖感はなく、冷静でした。運転手さんはアクセルを踏んでいない。前方は渋滞していない。後続車に事故を知らせるためにハザードランプを付けたい。追い抜いてゆく車に事故の通報をして欲しい。バスが止まるまで1kmの間の出来事でした。

近藤さんが後ろの座席から前に来て、手でブレーキを押してくれた事は後で知りました。冷静とはいえども必死だったのです。バスが止まったあとも運転手さんの救命に努め、他の乗客に呼びかけ協力して心臓マッサージを続けました。

残念ながら運転手さんは亡くなりましたが、乗客は全員無傷で生還出来ました。

思い返せば一瞬の出来事でした。

今回、社会貢献支援財団から光栄にも表彰していただき心よりお礼申し上げます。私の平凡な人生に誇らしい出来事です。

この喜びを忘れず、自分で出来る社会貢献を心がけたいと思います。

本当にありがとうございました。

小崎 緑

この度は、社会貢献表彰という大変にすばらしい場に参加させて頂き、本当にありがとうございました。正直これほどの式典が毎年行われていた事を初めて知り、驚きもありました。

私は今まで人命救助の話をニュースで見ると、皆さんの死と隣り合わせでいながらの行動は私には絶対に出来ない事であって、そんな勇敢な人達に拍手を送っていました。

今回、私は同僚3人と旅行の帰りのバスでこの事故に遭遇しました。

私は運転手側の前列通路側、北川さんは窓側に座っていました。それまで安全走行していたバスが突然、左のガードレールに接触し、そのまま右へ緩やかに蛇行し始めました。

運転手の姿は、私の場所から確認することは出来ませんでした。とっさにハンドルを取りに体が動いていました。北川さんは、運転手の心臓マッサージを行っていました。

走行中のバスの中、すぐ合流地点もあり周りの状況も見ながら、ハザードランプ、ブレーキを探していた時に最後列から近藤さんが来て、手でブレーキペダルを操作して緊急停車する事が出来ました。私達はお互い声を掛けながら行動した訳でもなく、気がつけば自然に自分の役割についていた感じでした。この事でかえって大惨事になっていたかもしれないと後で考えたら大変な事をしてしまったという思いもあります。

事故現場に別のバスが迎えに来て名古屋に着いた時は乗客31名全員、何事も無かった様に解散しました。

あの状況で体がとっさに動くことを体験しました。娘からは、無茶はしないでと言われましたが。

改めまして素晴らしい賞をありがとうございました。

近藤 潤哉

この度は、素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

社会貢献支援財団さんのおもてなしには、感謝の気持ちでいっぱいです。

今でも受賞式を思い出し、嬉しさが込み上げてきます。

事故当時、冷静な判断ができたのは一番後ろの席に座っていて運転席の状況がわからなかったからだと思います。

北川さんたちの横にいたら、あたふたしていただいだけでしょうから…。

故笹川良一会長が戦犯とご家族、ハンセン病患者など弱者を救済された逸話に感銘した自分には今回の受賞は本当に嬉しかったです。

夢が叶いましたのでもう何もありません。

ありがとうございました。



▲バス乗り場にて



▲毎日新聞 2013年(平成25年)7月6日(土)

古宇利 春孝／仲宗根 弘



沖縄県

平成25年12月31日午後3時48分頃、沖縄県の古宇利漁港において仲宗根さんが、魚をさばいていたところ、港から約1キロ沖合の海上に遊覧ヘリコプターが墜落するのを目撃したことから、古宇利さんの操船で墜落現場に急行し、海面に漏れ出た燃料により爆発の危険があったにもかかわらず、自らの危険を顧みず、海上で救助を待っていた乗員3名を救助した。

(推薦者：公益財団法人 警察協会)

古宇利 春孝

12月31日、お正月用の魚を準備するために、さし網を仕掛けに行こうと漁港で待機していたら、今までに聞いたことのない大きな音が響き渡り、何だったのかと思った数秒後に近くで魚をさばいていた仲宗根さんが、ヘリが落ちたと駆けつけてきたので、助けに行かなくてはと落ちた場所へ船を走らせた。

墜落現場へ着くと操縦士が、2人を抱きかかえているように浮いていた。3人は意識があったので、一人ひとり船に引き上げ、漁港へと船を走らせた。

女の子は、油まじりの海水を飲んでいてぐったりしていました。3人は怪我もして寒いと震えていたので、救急車がくるまでの20～30分の間、火を焚き寒さをしのいでもらいました。その日は波も高くなかったからすぐに見つけることが出来たが、海が時化していたら見つけることも難しかったと思いました。3人を無事に救助できて良かったと思います。

その時は、無我夢中で助けなきゃという思いだけでしたので、燃料により爆発の危険があるなどと考えもしませんでした。爆発していたらと思うと恐ろしくなりました。

助けたいとの思いで行った行為でしたが、感謝状を頂き、警察協会様より推薦いただき名誉ある賞を頂けることになり、感謝しています。有難うございます。

仲宗根 弘

平成25年12月31日、古宇利漁港で魚の処理中ヘリの音を聞き、音のする方向を見ると屋我地方面から古宇利方向に、低空で飛んで来るヘリが見えた。危ないなと見てみると、橋で見えなくなり、その直後に大きな音と共に橋の上まで水しぶきが上がったので、海に落ちたと思い、近くに古宇利春孝さんがいたので、「海にヘリが墜落した」と言って、古宇利さんの船ですぐに現場へ急行した。現場に着くと、ヘリは見えずヘリの油やヘリの部品が浮いていた。

サンドウ・ヨノツ



京都府

平成25年6月8日午後0時15分頃、三重県津市藤方の御殿場海岸で、家族、友人と潮干狩りに来ていたルーマニア出身のサンドウさんは、砂浜から130～150メートル地点で溺れている小中学生4人を発見し救助した。救助時はまだ海水浴の時期ではなかったため、波もあり、かなりの観光客もいたのだが、泳いでいる人は少なかった。大声で周囲に助けを求め、背も立たず、自身も疲労で溺れそうになりながら40～50メートル程泳ぎ、全員を救助した。

(推薦者：公益財団法人 社会貢献支援財団)

私にとって表彰式は、雰囲気・ホテル・会場・そこに出席されていた方々など全てを含め、日常とは全く無縁な時間・空間で、なぜ自分なんかがこの場にいるのか？と何度も現実を感じられなくなるといった体験でした。

人生全てを社会貢献に捧げている人たちや、なかなか実行できないようなことを大変な努力と労力で実践されている人たち、自らの危険を顧みずに他人のために危険に飛び込む人たち…表彰された方々の功績一つ一つにとっても感動したり驚いたり、涙がでたり勇気をもらったりしました。

自分はたまたま側で溺れていた人たちに救助することができましたが、それが濁流や線路の中なら、はたして飛び込めただろうか？など、自分の心に問いかけ、人としてのありかたを見つめ考える機会となりました。

ただ、スピーチの多くが「誇れる日本人」「日本人の素晴らしさ」「日本人の心」など、日本と日本人に対しての功績を称える内容だったことが、表彰に選んでいただいた数名の外国人の一人として心に少しひかかりました。

実際、私が人命救助をした事故当時、ビーチいっぱい到店が並び、バーベキューや潮干狩りを楽しむ人たちが数えきれないほどいたにも関わらず、海から私が、陸からは私の叫びに応じて妻が、大声で救助を求め続けても誰も来てくれず、かなり時間がたってから数名が駆け寄ってきてくれたという状態でした。事故当時は、そのことに本当に驚いて怖くなり、自分と家族は自分自身で守らなければ誰も助けてくれないことを、身を持って感じたものです。世の中は危険を冒してまで助けてくれる人の方が少ないのではないかと今も思わずにられません。

ですから、きっと表彰を受けられたたくさんの人たちは“日本・日本人”という枠を超えた人として素晴らしい人たちだと思います。

あたりまえじゃないからこそ、こうして表彰され偉業となるのだと思います。

今回賞をいただくまで、私も私のまわり人間もこのような賞があることを知りませんでした。このような賞がもっと世間に広く浸透し、助け合い、たたえあう世の中になればと思います。

今回の賞は、わたしにとって人生で一番の功績であり、選考していただいたこと、とてもありがたく誇りに思っています。この賞をいただいたことに恥じないように今後の人生も生きていきたいと強く思います。

ありがとうございました。



▲救助した海でサンドウさん



▲救助現場

海で小中生4人救助
サンドウさん、山岡さん表彰
四日市海保

【四日市】四日市海上保安第二十二区、津市勝方の細屋敷を救助した、ルーマニア国籍で下郷建祐部（タカノケンタ）は、海岸で溺れた小中学生4人を表彰した。
今月八日の午後零時十五分ごろ、家務で瀬手狩りに訪れていたサンドウさん（カミツ）は、浪が約三十センチほど離れた場所まで中学生が歩みにはまり溺れているのを発覚。すぐ近辺にいた人へ声を掛けると泳いで現場へ向かい、海岸で海の家を営業している山岡さんや、バス旅行で来ていた奈良市の会社員ら三人と連携し、少年らを順番に救助した。
表彰式は四日市千歳町の同区保安部であり、下郷部長が感謝状を手渡し、「多くの方面で助けを乞って救助して

6/21 伊勢新聞朝刊

いたいた。勇気ある行と話し、山岡さんは「瀬手狩り」とたたえた。サンドウさんは「二人では何もできなかった。冷静に声を掛けたいでほしい」と助言しることができてよかった。

▲伊勢新聞朝刊 平成25年6月21日